

# 国語科学習指導案

指導者 福山市立戸手小学校 藤田 実佑

1 研修テーマ 自分の「経験」と教材文の「内容」を結び付け、感想をもつ力の育成  
～実体験を想起できる場づくりの工夫を通して～

2 日 時 令和5年10月26日（木）第5校時

3 学 年 第1学年2組 男子13名 女子12名 計25名

4 単元名 文しょうをよみ のりものはかせになろう

「じどう車くらべ」「じどう車ずかんをつくろう」

（光村図書 こくご 一下 ともだち）

5 単元について

## （1）単元観

本単元は、小学校学習指導要領第1学年及び第2学年のC「読むこと」の指導事項「（1）オ文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。」を受けて設定している。

文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ力を育成するには、文章の内容を、自分が既にもっている知識や実際の経験と結び付けて解釈し、想像を広げたり理解を深めたりし、文章の内容に対して児童一人一人が思いをもつことが必要となる。

本単元で扱う「じどう車くらべ」は、身近な自動車には、仕事とそれに合ったつくりがあることが平易な言葉で説明されている。自動車が身近なものだからこそ、体験と結び付けて言葉の意味や繋がりをイメージしやすい教材であり、自動車を見たり自動車で乗ったりした体験を結び付けて理解を深め、考えをもたせることができる。さらに、教材文に載っていない自動車についても興味を広げ、ほかの自動車についての本を読む活動につなげることでできる教材である。

## （2）児童観

本学級の児童は、これまでの文学的な文章や説明的な文章の学習で、初読の感想や疑問を交流してから学習をスタートしてきた。こうして出し合った感想や疑問を踏まえて自分たちで立てたゴールに向かって、文章を読んで感じたことを意欲的に友達と伝え合ったり、発表したりする姿が多く見られる。

これまでに学習した説明的な文章「くちばし」「うみのかくれんぼ」では、文章の中から重要な文や語句を選び出す力を身に付けてきた。しかし、文章に対する感想を交流する際には、自分の知識や経験と結び付けることなく、ただ「知らなかった。」「すごい。」と終わる児童が多かった。また、自分で考えて書くことが難しい時には固まってしまう児童が数名いる。「知らなかった。」「すごい。」で終わることなく、クラス全員が自分の知識や経験と結び付けながら感想をもつことができるように、既存の経験が文章のどの部分と結び付くのかを明確にしながら学習を進めていきたい。

## （3）指導観

指導に当たっては、第1時で学習計画を立てる際に、自動車に関する本を用いた考え聞かせやクイズを行ったり、自動車の模型や本を学級に置いたりすることで自動車に対する興味・関心を十分に喚起しておきたい。また、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもつことができるよう、自動車について知っていることを話す時間を十分に取り、見えるところに掲示しておき、いつでも振り返って思い出せるようにする。第3次で感想を書く際には、①調べて分かった自動車の仕事とつくり②自分の知っていた自動車の特徴③調べて分かったことと自分の知っていたことから分かったこと④自分の感想の順に書くように提示し、自分の経験が文章のどの部分とつながっていくのかを明確にしながら、自分の考えを整理できるように支援していきたい。

6 単元の目標

- 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。  
〔知識及び技能〕 (2) ア
- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。  
〔思考力, 判断力, 表現力等〕 C (1) ウ
- 文章の内容と自分の体験とを結び付けて, 感想をもつことができる。  
〔思考力, 判断力, 表現力等〕 C (1) オ
- 言葉がもつよさを感じるとともに, 楽しんで読書をし, 国語を大切に, 思いや考えを伝え合おうとする。  
「学びに向かう力, 人間性等」

7 単元の評価規準

自動車について書かれた本や文章を読み，分かったこと，思ったことを文章にまとめることを通した指導 <span style="float: right;">【言語活動例 ウ】</span>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	①「読むこと」において，文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。C(1)ウ ②「読むこと」において，文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもっている。 C(1)オ	①進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち，学習の見通しをもって，感じたことや分かったことを文章にまとめようとしている。

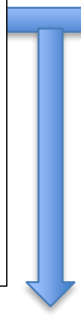
<評価の具体及び手立て>

	評価規準【「おおむね満足できる」状況(B)】	「努力を要する」状況(C)と判断した児童への指導の手立て
思考・判断・表現①	<p>「読むこと」において，文章の中の重要な語や文を選び出している。</p> <p>ワークシート①</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の中から必要な語や文章を選び，書き込むワークシートと，あらかじめ教材文が書いてあり，重要な語や文章を選び，線を引くワークシートを用意し，自分の学習状況によって選べるようにする。</li> <li>既存の知識や経験を書く付箋を用意しておき，文章の中の似ている部分に貼り付けることで繋がりを見出せるようにする。</li> </ul>

・付箋に書いた自分の経験と、文章の中の似ている言葉を探し、貼り付けるよう助言する。

①きょうかしよにかいてあること  
バスやじょうよう車は、人をはこぶしごとを  
しています。そのため、ざせきのところがひ  
ろくつくつてあります。

②じぶんのけいけん  
おとうさんの車も、八人のりでざせきがひろ  
いです。



①と②をつなげてかんがえたこと  
かぞくででかけるときはおとうさ  
んの車にのることがおおいのは、ざ  
せきがひろくて、かぞくみんながの  
つても、きゆうくつにならずにいど  
うできるからだとおもいました。

④おもったこと  
クレーン車やパトカーだけでなく、いえにある車にもしごとがあると  
おどろきました。

ワークシート②

「読むこと」  
において、文  
章の内容と自  
分の経験とを  
結び付けて、  
感想をもっ  
ている。

8 指導と評価の計画（全12時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・ 評価方法 等
一	1・2	<p>学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知っている自動車について話し合ったり，自動車に関する読み聞かせやクイズをしたりし，経験を想起させる。</li> <li>・初読の感想や疑問を交流する。</li> </ul>				
二	3	<p>全体読みをし，段落の構成を確かめる。</p>	○			<p>[知識・技能①]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。</li> </ul>
	4 5 6 (本時)	<p>「じどう車くらべ」を読み，三つの事例を比較しながら解釈する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・順序に気を付けて，書かれている内容を確認する。</li> <li>・それぞれの事例の内容をワークシートにまとめ，感想をもつ。</li> </ul>				
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に書いてある自動車の仕事とつくりを整理し，問いに対するまとめを考える。</li> </ul>				
	8・9	<p>自動車に関する本や資料を読み，興味をもった自動車について調べ，まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の調べたい自動車を決め，本を使って調べる。</li> <li>・大事な言葉に気を付けて読み，抜き出す。</li> <li>・調べたことをワークシートにまとめる。</li> </ul>		○		<p>[思考・判断・表現①]</p> <p><u>ワークシート・発言</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において，文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。</li> </ul>
三	10・11	<p>自分が調べた自動車を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでにまとめたワークシートを比較して紹介する自動車を決め，自分の思いや考えを入れながら，自分が選んだ自動車を紹介する文章を書く。</li> </ul>		○		<p>[思考・判断・表現②]</p> <p><u>ワークシート・発言</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において，文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもっている。</li> </ul> <p>[主体的に学習に取り組む態度①]</p> <p><u>児童の様子</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち，学習の見通しをもって，感じたことや分かったことを文章にまとめようとしている。</li> </ul>
四	12	<p>学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を振り返り，単元の学習を通して付いた力やこれからの学びに生かせることを考える。</li> </ul>				

9 本時の学習

(1) 本時の目標

文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
<p>○身近な自動車について知っていることを共有する。</p> <p>○本時のめあてを確認する。</p>	<p>○身近な自動車について、友達と話すことで、既存の経験や知識を想起させる。</p> <p>○ワークシートの記入例を掲示しておく。</p>	
<p>しっていたこととあたらしくしたことをつなげて、かんそうをかこう。</p>		
<p>○文章の内容と自分の体験を結び付け、考えたことをワークシートにまとめる。</p> <p>○次時の見通しをもつ。</p>	<p>○自分の体験について記述している付箋を、教材文と結び付け、文章化の手助けとなるようにする。</p> <p>○絵を描く用紙を用意し、具体的に自動車のどの部分が結び付いたのかイメージしやすくする。</p> <p>◆①から順に一つずつ書いていくよう促す。 ◆似た言葉を探し、結び付けるよう声掛けをする。</p> <p>○友達と感想を交流することを伝える。</p>	<p>[思考・判断・表現②] ワークシート・発言</p> <p>・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</p>

(3) 板書計画

④おもったこと

②じぶんの  
けいけん

①きょうかしよ  
にかいてある  
こと

③①と②をつな  
げてかんがえ  
たこと

⑤「め」じどう車くらべ  
しっていたこととあたらしくした  
ことをつなげて、かんそうをかこう。

⑥「見」

- ・「⑧⑨だんらくをよむ。」
- ・「しごと」「ついでいます。」
- ・「ありがとうございます。」

⑦「ふ」  
いへの車にもしごとがあるときづい  
て、びつくりしたよ。  
もつといろんな車のしごとやつくり  
をしりたい。

10 指導の実際

(1) 指導上の工夫

① 自動車に興味をもたせるための工夫

教室の外に、「のりものランド」を作り、自動車に関する本や自動車の模型、図画工作科の授業で児童が作った箱のおもちゃ等を展示した。子どもたちは、朝読タイムや休憩時間に本やおもちゃを手に取り、自動車への興味を深めていた。自動車に関する本は、新市図書館と連携し、約30冊を1か月借りることができた。



② 教室掲示の工夫

教室には、子どもたちと立てた単元計画やこの単元を通して付けたい力、段落構成図を掲示し、学習に見通しをもち、教科書のどの部分を読めばよいかを明確にして授業が進められるようにした。また、自動車に関する既存の知識と、既習内容も合わせて掲示し、自分が知っていることと教科書の内容を比較できるようにした。

**児童と立てた学習計画**

**段落構成図**

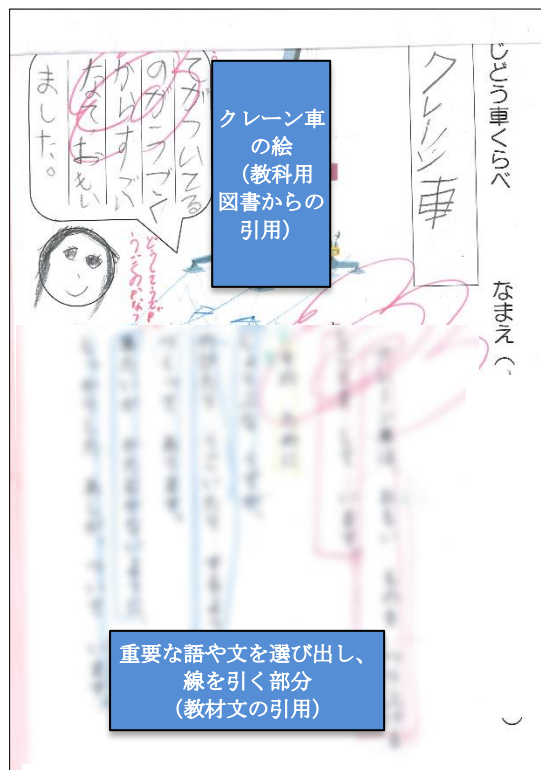


**児童の自動車に関する既存の知識の掲示**

③ワークシートの工夫

本学級の児童実態として、「書く」能力に差があるため、第2次の「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出す学習では、自動車の仕事とつくりを教材文から読み取って「書く」ワークシートと、教科書の文章に「線を引く」ワークシートを用意し、自分で選べるようにした。

そうすることで、書くことが苦手な児童も、抵抗なく重要な語や文を見付ける活動を行うことができた。

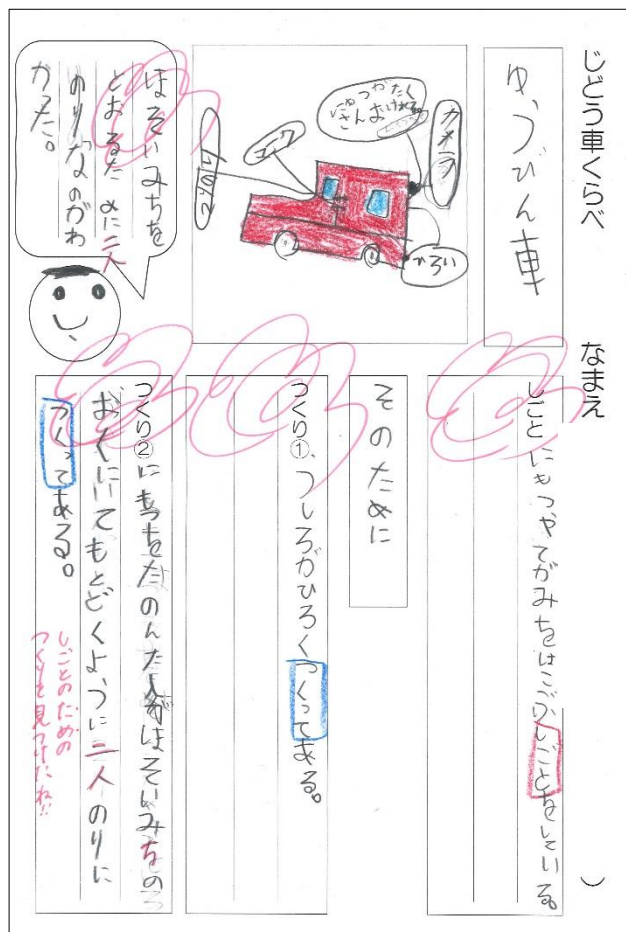


④児童が自動車を見る機会の設定

本校は、地域の給食センターから毎日給食が運ばれてくるため、センターの方と連携し、間近でトラックを見せてもらうことができた。一般的なトラックにはない、「ワゴンを止めるベルト」や「ワゴンを下すためのスロープ」等のつくりがあり、何のためにこれらが付いているのかを真剣に考え、「しごと」とのつながりについて気付くことができた。また、自分の見たことのある車と比べ、「家の車とタイヤの大きさが違うのはどうして?」と、疑問を挙げる児童もいた。自動車を見た経験はあっても、「つくり」に着目している児童はほとんどいなかったため、「しごと」をするための「つくり」に目を向けるいい機会になった。

(2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

①仕事とつくりの関係が理解できない児童  
→知っている自動車のつくりを書き出し、仕事につながるつくりを選ぶよう指導すると、どの自動車にもあるつくりと、その自動車にしかないつくりを選別し、仕事に必要なつくりを考えて書くことができた。





②書くことが難しい児童

→10 (1) ③で示した、教材文に線を引くワークシートを使用し、仕事は赤、つくりは青で色分けをさせることで、文章の中の重要な語や文を考えて選び出す活動を行った。どの自動車も、仕事は赤、つくりは青で色分けし、視覚的にも区別できるようにしたことで、書字への負担感を減らしつつ、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができるようになった。

③自分の経験と文章に書いてあることが結び付けられない児童

→自分の経験を書いた付箋と、教材文の似ている言葉を探すよう声を掛けた。  
→知っている自動車と新しく知った自動車を簡単な絵に表すよう促し、似ているところを探し、その後文章に戻るよう指導した。

11 評価の実際

(1) 評価の具体

【思考・判断・表現①】では、並行読書してきたものから「しごと」「つくり」を選び出したワークシートの記述内容やそれらについて音声表現した内容から評価した。

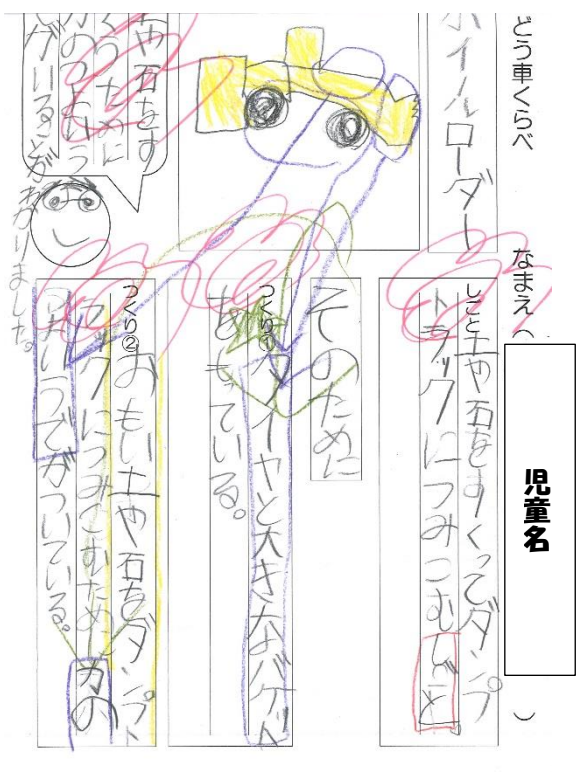
第4時から第7時で、教材文の三つの事例を挙げ、それぞれの自動車に「つくり」と、しごとをするための「つくり」があること、「しごと」をするためにより必要度の高い「つくり」から順に書かれていることを学習した。それらをもとに、図鑑や本から「しごと」「つくり」を適切に選び出して、ワークシートに記述している児童を「おおむね満足できる」状況(B)とした。

一方、並行読書してきた図鑑や絵本から「しごと」「つくり」を適切に選び出せなかった児童は、「努力を要する」状況(C)とした。そのような児童には、まず「しごと」「つくり」(または、「～あります。」「～ついています。»)という言葉を探すよう助言し、その言葉の付近をしてみるよう声を掛けた。また、同じ自動車を調べている児童と一緒に活動させることで、教え合いながら意欲的に活動する姿が見られた。

なお、並行読書してきた図鑑や絵本から「しごと」「つくり」を適切に選び出し、「しごと」に必要度の高い「つくり」に気付き、順序を考えてワークシートに記述している児童を「十分満足できる」状況(A)評価とした。

「おおむね満足できる」状況(B)とした児童のワークシート

「十分満足できる」状況(A)とした児童のワークシート



【思考・判断・表現②】では、教材文の事例の中から、既有的経験や知識と結び付けられるものを選び、文章の内容と自分の体験をつなげて感想を記述している内容から評価した。

ここでは、自分の経験を付箋に書き出し、教材文のどことつながるのかを線を引く等して明確にし、感想をもつことができた児童を「おおむね満足できる」状況（B）とした。

一方で、文章の内容と自分の経験を結び付けることはできたが、精査・解釈の段階に留まり、感想をもつことができなかった児童は、「努力を要する」状況（C）とした。そのような児童には、「もっと知りたいことはある？」「新しく知った自動車が自分の知っていた自動車と似ていると知ってどうだった？」等の質問を投げかけ、言葉にできたことをそのまま書くよう指導した。

なお、文章の内容と自分の体験を結び付けて感想をもつ際に、学習したことから、これからの自分に生かしていきたいことを見付け出して記述している児童を「十分満足できる」状況（A）とした。

## （2）児童の評価

本単元を終えて、「思考・判断・表現②」について、「十分満足できる」状況（A）の児童は2人、「おおむね満足できる」状況（B）の児童は20人、「努力を要する」状況（C）の児童は3人であった。

「思考・判断・表現①」「思考・判断・表現②」とも、「努力を要する」状況（C）の児童は同一の3名であったため、10（2）で示した手立てを講じながら指導した。それにより、思考・判断・表現①の評価は、3名とも「おおむね満足できる」状況（B）となった。しかし、文章の内容と自分の体験は結び付けることはできたが感想をもつことはできなかった児童が1名、文章の内容と自分の体験とを結び付けることができなかった児童が2名おり、これら3名を思考・判断・表現②の評価は、「努力を要する」状況（C）とした。

**考えの形成において  
「おおむね満足できる」状況(B)  
とした児童のワークシート**

児童名

④ がくしゅうをとおしておもったこと

車のには、しごとがあって、しごとにあたふりが  
あるとおもって、おもしろかったです。  
いえの車をもっとよく見てみたいです。

② しぶんのけいけんやしていること

ひっこしトラックも、ひっこし  
のしごとをやっていて、いま  
なまかに、なまかに、なまかに

① ぶんしょうのなかで  
あたらしく思ったこと

トラックは、いまもつを  
はこぶしごとを、いまもつ  
てのため、いまもつて、いまもつ  
ひっこし、いまもつて、いまもつ

児童名

③ ①と②から  
かんがえたこと

大きなトラックは、いまもつを  
はこぶしごとを、いまもつ  
ひっこし、いまもつて、いまもつ  
こと、いまもつて、いまもつ  
ひっこし、いまもつて、いまもつ  
を見た、いまもつて、いまもつ  
トラックは、いまもつを  
はこぶしごとを、いまもつ  
ひっこし、いまもつて、いまもつ  
や、いまもつて、いまもつ  
います。

じどう車くらへ ワークシート  
「ねん（二）くみ なまえ

## 12 成果と課題

### (1) 成果

- ・「じどう車くらべ」の授業が楽しかったと答えた児童 100%
- ・「しごと」と「つくり」の繋がりが分かったと答えた児童 92%
- ・図鑑や本を使って、自動車の「しごと」と「つくり」の繋がりを考えてワークシートにまとめることができた児童 88%  
「努力を要する」状況（C）にあると評価した児童3名には、同じ自動車を調べる児童と一緒に活動しながら、ワークシートを作成させた。今後も、文章に線を引いたり、他の児童の言葉を聞いたりしながら、書いてあることの意味理解ができるよう学習を進めていく。

### (2) 課題

- ・文章の内容と関連する既有的な経験や知識はたくさんあるものの、文章と直接結び付きにくいものが多く、自分の知っていることが、文章の中のどの部分と結び付くのが分からない児童がいた。文章の内容に関連のあるものに絞って、想起させる必要がある。
- ・自動車の「仕事」と「つくり」が整理されていない本があり、選んだ本によって重要な語や文を選び出すことの難易度に差がある。児童の実態に応じた本を選んだり、授業者が資料を分かりやすく加工したりする必要がある。
- ・教材文の読み取りに時間がかかり、分かったことや考えたことを児童同士で話し合ったり、共有したりする時間を十分に取ることができなかった。単元で身に付けたい力と学習内容を勘案し、授業内容を取捨選択する必要がある。

### (3) 今後に向けて

国語科のみならず、色々な教科の学習の中で、自分の経験を想起させたり、経験をもとに対話をさせたりする必要があると感じた。日頃から、学習内容と既有的な知識・経験を結び付けていくことで、考えの形成にも繋げていきたい。

また、ただ教える授業ではなく、具体物を触ったり、写真・動画を効果的に使ったりすることで、子ども達が実体験を伴う理解ができるよう取り組んでいきたい。

## 付録 選書リスト

書名	著者名	出版社名
くらべるしらべるずかん はたらくじどう車	元浦 年康	あかね書房
はたらく車のしくみ・はたらき・できるまで シリーズ (全5巻)	こどもくらぶ	岩崎書店
のりものくらべ シリーズ (全5巻)	相馬 仁	偕成社
はたらくじどう車 しごととつくり シリーズ (全5巻)	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車くらべ シリーズ (全6巻)	国土社編集部	国土社